

日本で承認されているHPVワクチン

(2024年8月時点)

ワクチン名 [製造販売]	サーバリックス (2 価HPVワクチン) [グラクソ・スミスクライン]	ガーダシル (4 価HPVワクチン) [MSD]	シルガード9 (9 価HPVワクチン) [MSD]
ワクチンのタイプ	不活化ワクチン※1	不活化ワクチン※1	不活化ワクチン※1
対象年齢	10 歳以上	9 歳以上	9 歳以上
接種回数 (接種間隔)	3 回 (0、1、6 ヶ月間隔)	3 回 (0、2、6 カ月間隔)	3 回※2 (0、2、6 カ月間隔)
感染予防効果	50 ~ 70%※3	50 ~ 70%※4	80 ~ 90%※5
副反応	軽いもの (10%以上の確率)	・注射したところの痛み、赤み、腫れ ・関節痛 ・頭痛 ・だるさ など	・注射したところの痛み、赤み、腫れ
	軽いもの (1 ~ 10 %の確率)	・じんましん ・めまい ・発熱 など	・注射したところのかゆみ、不快感 ・頭痛 ・発熱 など
	軽いもの (1 %未満の確率)	・注射したところの知覚異常 ・しびれ感 ・全身の脱力	・手足の痛み ・腹痛 など
	重いもの (頻度不明)	・ショック、アナフィラキシー ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	・アナフィラキシー ・気管支 けいれん ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM) など

※1 感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質からできています。1回接種だけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。

※2 初回接種を15歳未満で受けた場合は、初回接種から6~12カ月の間隔を置いた合計2回の接種とすることができます。

※3 子宮頸がんを最も起こしやすい型であるHPV 16型と18型の感染を防ぐことができるため、子宮頸がんの原因の50~70%を防ぐことができます。

※4 HPV 16型と18型に加え、6型と11型の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の50~70%を防ぐことができます。

※5 HPV 6型、11型、16型、18型に加え、ほかの5種類(31型、33型、45型、52型、58型)の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の80~90%を防ぐことができます。

参考:サーバリックス®、ガーダシル®、シルガード®9 の各添付文書(一部改変)、HPVワクチンについて知ってください~あなたと関係のある“がん”があります~(2024年2月改訂版、厚生労働省)、HPVワクチンの接種を逃した方に接種の機会をご提供します(2024年2月改訂版、厚生労働省)